第四号

森ボラ新聞

発行日
2007年11月
発行者
福島県森林ボランティア
サポートセンター
〒969-1302
安達郡大玉村玉井字長久保68
ふくしま県民の森
フォレストパークあだたら内
TEL0243-48-2040
http://www.f-vfsc.com/
E-mail:info@f-vfsc.com

団体紹介
その５

「森ボラ新聞」では、県内で活発な活動を行っている森林ボランティア団体を紹介しています！

美しい背あぶりの森をつくる会

雪で倒されないよう
竹でつくった雪囲い

←会員のみなさん
見るからに逞しい！

笑顔にズームイン！

作業終わったよ～！悠遊の森の真ん中にて

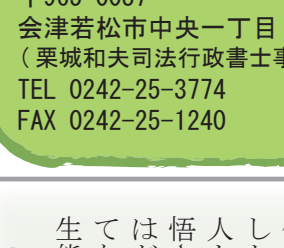
美しい背あぶりの森をつくる会は、森林と共生した持続可能な社会づくりを目的として、平成十三年十二月に設立されました。きっかけは同年に開催されたうつくしま未来博。未来博の理念を会津の地で形にしようと立ち上げられたそうです。現在会員は五十歳代から七十歳代まであわせて十六名。一般の方々を対象に、「東山ボランティアの森（悠遊の森）」での森林づくり活動や背あぶり山での自然観察会を実施されています。

平成十九年十月二十一日、悠遊の森で行われた里山づくりにお邪魔し、会長の雪孝一さんにお話しを伺ってきました。

この日の参加者はスタッフもあわせて二十数名。植えた樹木が無事に冬を越せるよう草刈り・雪囲い作りに取り組まれていました。ダム建設にともなう残土置き場だったここに木を植え始めて今年で六年目。今でこそ一面に樹木が植えられていますが「当初はひどい藪だったよ。」と雪さん。今でもまだ石がごろごろしているので、この日は小学生仲好し女子二人組が石運びのお手伝い。除去された石は焚き火サークルへと利用されました。「今までいろんな助成金に応募したし、地域の方々にもご協力いただきました。おかげで苗木や森林整備道具がある程度そろってきたかな。特に助成金については申請書・報告書の作成が大変だけど、会員の中には司法書士の資格を持っている方がいてね。」とのこと。助成金に絡む書類作りに悩まされている団体さんが多い中、こうした専門家の存在はうらやましいですね。他にも、大工の得意な八百屋さんや植物に詳しい保険屋さんなど、会員の面々は少数精鋭、多士済々。

平成十九年度の活動は「年間５回のイベント開催のほか、市内の幼稚園と小学校に出向いての森林活動支援がそれぞれ年５回程度。事前の下見や準備もあるから結構忙しいんだよ。」とのこと。幼児から大人までと幅広い年齢層を対象に活動されています。会を運営する中で難しいと感じることはないかとお尋ねしたところ「イベントの広報は難しいね。なかなか人が集まらない。自然観察会はそこそこ集まるけれど、森林整備は参加者が少ないな。参加者が多いからいいというものでもないけど、いい広報手段はないものかなぁ。」とのこと。今後の活動については「何よりも安全第一、その上で楽しむ。この二つのことを大事に活動したいです。実はここだけのはなし、新しいフィールドを探しているところなんです。」悠遊の森が一段落して終わりではなく、既に次のステップを考えていらっしゃるとは！今後の活動に注目です。会では一緒に活動してくださる方を募集中です。興味がおありの方は左記までお問い合わせください。

散策路も手作りで開設
丸太の階段を下りた先には、
ホタルの住む水辺がありました


見事な焚き火サークル
ここで火をたく日が待ち遠しい

「あけび沢」の名の通り
アケビの実がたわわ！

作業の合間のお楽しみ～
ほかほかの焼き芋です

お問い合わせ
美しい背あぶりの森をつくる会
事務局
〒965-0037
会津若松市中央一丁目４番31号
（栗城和夫司法行政書士事務所内）
TEL 0242-25-3774
FAX 0242-25-1240

イベント参加レポート

わかば子どもエコクラブ

平成十九年十月十三日（土）

この日参加のお友達　いいお天気でしたね！

福島県会津自然の家（会津坂下町）にて開催された「わかば子どもエコクラブ」にお邪魔してきました。主催は磐梯・会津地域で環境教育に取り組んでいるNPO法人わかば自然楽校。エコクラブは地域の小学生を対象とした通年講座です。

今日のテーマは森に暮らすフクロウの保護について。昨年冬から森の中に掛けておいた巣箱の掃除をして、来年の子育てで使ってもらえるように準備しました。この日の参加は女の子一人を含む七人。事務局の五十嵐悟さんから「フクロウの食べ物はどんなもの？」「ペリットってなあに？」など、フクロウの生態についてレクチャーを受けた後、みんなでハシゴを持って森の中に出かけました。とにかくみんな元気いっぱい好奇心いっぱい。アリジゴクだ！どんぐりだ！マツボックリだ！ひっつき虫いっぱいだね！などなど。寄り道ばかりでなかなか巣箱にたどり着きません。でもこれこそが大事。もちろんテーマに沿ってプログラムは行われるのですが、何よりも大事なのは主役である子どもたちの興味・関心です。「いつもこんな感じなので一回に多くの内容を詰め込まないようにしているんです。」と五十嵐さん。「虫とか藪を嫌がる子どもが多い中、これだけ森の中で楽しく過ごせる彼らはたいしたものです。」とのことですが、それは子どもたちに「いがぴー」と呼ばれる五十嵐さんの雰囲気づくりあってこそだと感じました。あいにく午前中しかお邪魔できませんでしたが、昼食をはさんで午後からも巣箱掃除を行い、中からは小鳥の羽が何枚も出てきたそうです。フクロウが食べたのか？それとも・・・？来年、この巣箱からヒナが誕生するといいですね。

みんなで協力してはしごを運びます

センブリの味見中。この後悲鳴が！？

森ボラ新聞とは

福島県森林ボランティアサポートセンターが発行する広報誌のこと。『森林を守るボランティアの皆さん』や『森林に関心をお持ちの皆さん』と『森林』とをつなぐお手伝いをしたい！という願いを形にしたものです。

新聞では、①森林ボランティアサポートセンターのこと、②森林ボランティアに関すること、③森林のこと、④森林を守り育てるためにできることをお伝えしていきます。

森林ボランティア
サポートセンターとは

福島県が平成18年6月に開設した機関。平成19年度は、（財）ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団が県からの委託を受けて運営しています。

【設立の背景・目的】

木材価格の低迷、林業従事者の高齢化や減少により、県土の7割を占める森林の手入れが行き届かなくなっています。水を蓄えたり、必要以上に山の土砂が流されてしまうのを防いだり、温暖化の原因となる二酸化炭素を吸収したり…。そうした森林の力を蘇らせるため、福島県では「森林文化のくに・ふくしま県民憲章」を制定、平成18年度からは森林環境税を導入し、県民一人ひとりの参加による森林づくりを推進しています。

こうしたなか設立された森林ボランティアサポートセンターは、森林ボランティア活動の支援を通して、「みんなで森林を守り、育てよう！」という意識を醸成することを目的としています。

【森林環境税の使途】

皆さんからいただいたお金は、森林の手入れのほか、森林環境教育や森林文化の保全・継承のために使われています。

サポートセンターも森林環境税を財源として事業を行っています。